暖房設備効率の確認方法

別紙12

暖房設備の種類が異なる場合や暖房設備を新設する場合など、カタログ等により暖房効率の比較ができない場合は、以下の方法により、効率が10%以上向上すること確認してください。

暖房設備効率の確認方法は以下の通りです。

①国立研究開発法人　建築研究所　「住宅に関する省エネルギー基準に準拠したプログラム」HPの計算プログラムを用いる。

https://house.lowenergy.jp/program.html

①-1　エネルギー消費性能計算プログラムに入る。

①-2　使用許諾条件に同意する。

①-3　詳細入力画面に入る。

②　基本情報を入力する。

・住宅/住戸(タイプ)の名称、住宅の建て方、居室の構成、地域区分のみ入力し、その他のセルはそのままとしてください。

・住宅/住戸(タイプ)の名称は、リフォーム前後を区別できるように、「前」、「後」等の言葉を含むようにしてください。

・暖房設備のみを比較するための計算ですから、断熱リフォームを行う場合であっても、外皮性能は入力されている値をリフォーム前後で変更しないでください。
住宅全体の一次エネルギー消費量の計算を行う場合は別途、計算を行ってください。

・冷房等、その他のタブも原則入力されている値を変更しないでください。

・暖房熱源を家庭用コージェネレーション設備とする場合は、「暖房」タブの他、「給湯」、「コージェネ」タブを入力してください。

③　「暖房」タブで、暖房設備の情報を入力し計算する。

右図は、プログラムの初期設定画面です。

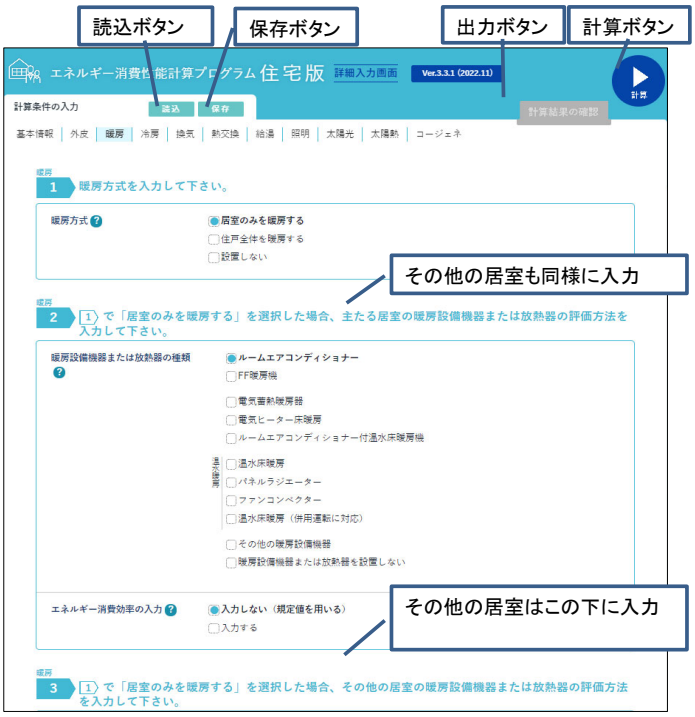
まずリフォーム前の状態を入力、計算して保存してください。

・住宅全体で暖房方式の選択

・主たる居室とその他の居室で、暖房設備機器または放熱器の選択、評価方法の選択等の項目を入力してください。
暖房設備を新設する場合は、リフォーム前の入力時、「暖房」タブでは、暖房方式を「設置しない」を選択してください。

・保存すると、パソコンのダウンロード・フォルダ等にresume.xmlというファイル名で保存されるので、適宜ファイル名を変更してください。
（例）　A邸入力情報　リフォーム前.xml
入力した情報を保存しておくと、画面を閉じた後、読込して入力内容を修正、再計算が比較的簡易にできます。

・リフォーム前の暖房設備、熱源機器の性能を入力する場合は、各設備のメーカー、品番を確認できる写真等を添付してください。



④出力ボタンを押して計算結果を出力する。

・計算後、出力ボタンを押すと、右の画面が表示されます。一番下にある「PDFを出力する」ボタンを押して、計算結果をダウンロードし、適宜ファイル名を変更して保存してください。

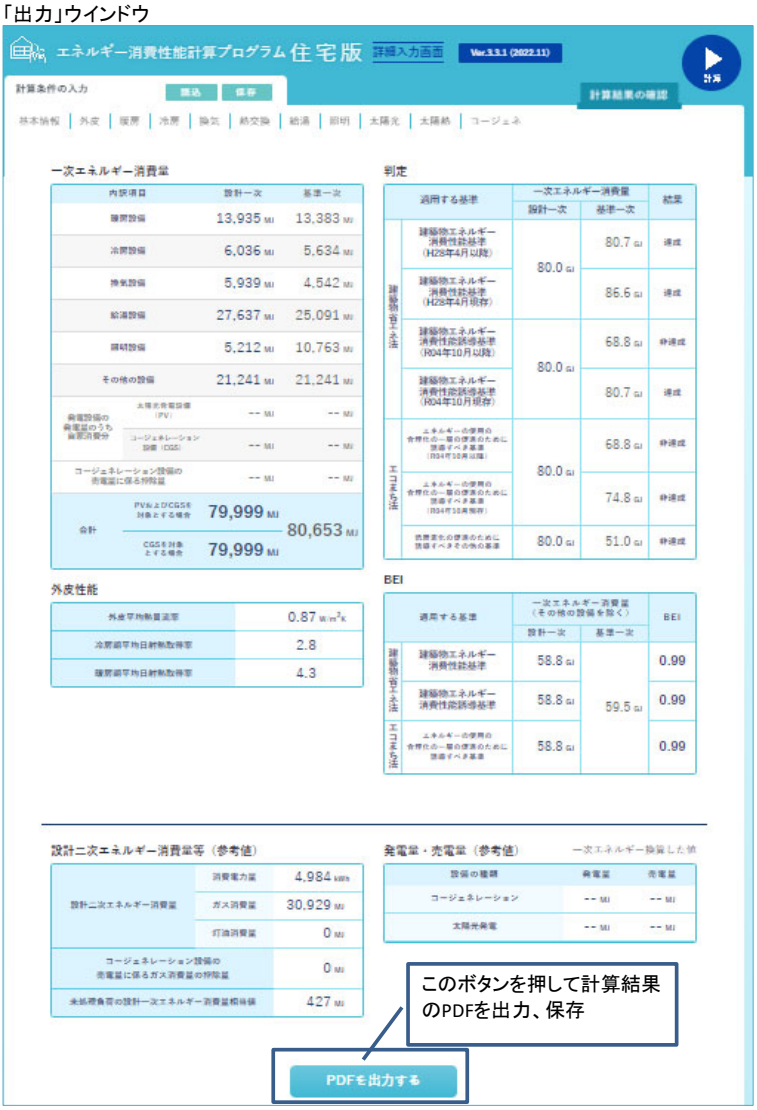
（例） A邸　計算結果　リフォーム前.pdf

ダウンロードした計算結果は、交付申請書類として提出する必要がありますので、確実に保存してください。

・リフォーム前の計算結果を保存したら、リフォーム後について同様に情報を入力し、計算結果を保存してください。

（例） A邸　計算結果　リフォーム後.pdf

「出力」ウインドウ

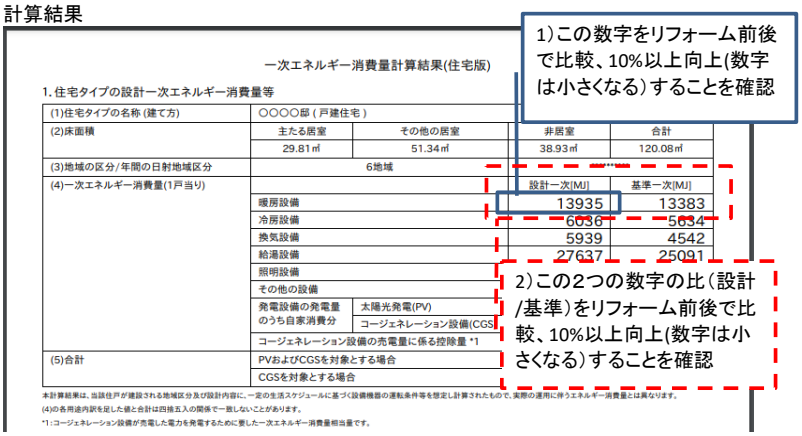


⑤リフォーム前後の計算結果を確認する。

次の1)、2)のいずれかによって、暖房設備の効率が、リフォームの前後で10%以上向上することを確認してください。

1)暖房設備の設計一次エネルギー消費量が10%以上減少すること(右図青枠)

2)暖房設備の基準一次エネルギー消費量に対する設計一次エネルギー消費量の比が、10%以上小さくなること(右図赤破線枠)

計算条件を確認できるように、計算結果のPDFは、リフォーム前後とも全ページ提出していただきます。

計算結果